



◆ 出演児童と題目 ◆

- ・石井 さらら 【和尚と小僧】
- ・佐藤 大誠 【松尾神社の石段】
- ・松田 富未也 【クモとハチ】
- ・小川 駿汰 【鶴の恩返し】
- ・尾形 実紅 【長い名の子】

「夕鶴っ子の会」

置賜子ども芸術祭



鶴の便り  
鶴の便り

夕鶴の里資料館報

平成26年12月20日

第48号  
発行 夕鶴の里

TEL 47-5800

十二月十一日(木)より、出前による語り部養成講座が漆山小学校で始まりました。今年度は、漆山小学校四年生、五年生、中川小学校四年生の合計四十二名が合同で受講。三回の講座を受講し発表も行います。第一回目の講座は、語りの読み合わせや発声練習など、基本的な事を学びました。

語り部養成講座

中川小学校・漆山小学校合同

置賜子ども芸術祭が、十一月二十四日(月・祝日)川西町フレンドリープラザで開催されました。置賜の各市町より選出された子供の団体が演劇、歌、踊りなどを披露しました。南陽市からは、夕鶴の里より、子どもの語り部5名が「夕鶴っ子の会」として出演し、笑い話や、伝説民話を語り、大好評でした。

十一月二十二日(土)十時より、夕鶴の里調理室で、「おだんごを作って食べよう」が開催されました。地元漆山小学校の二年生から六年生まで七名が参加し、団子の粉を丸めて、粘土感覚で形を作り、食紅やチョココレイトを使いカラフルで、かわいらしい団子をつくりました。参加した子供たちは、「めっちゃ楽しい!」「おいしい!」と、言って大喜びでした。

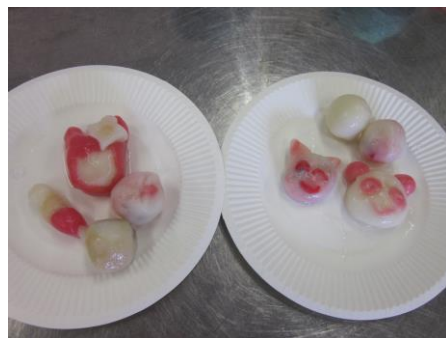
昔のあそび



「金蔵」の優しい気持ちに惹かれ、【鶴の恩返し】を語りたい。と意欲的に受講していました。

お知らせ

次回の昔の遊びは、来年一月二十四日、「卓上機械り機でコースターを作ろう!」です。参加費は、200円。ぜひ、ご参加ください。



パンダやこぶた。もっちもちの、お団子が完成!



団子の粉と、小麦粉に水を入れて混ぜて、こねて。おいしくなあれ!

# 民話会ゆうづる 会員紹介

今回は、民話会ゆうづるの会員、伊藤進司さんをご紹介します。

Q、民話会ゆうづるの会員になったのはいつごろですか？また、そのきっかけはなんですか？

A、伊藤

平成二十五年四月です。語り部養成講座を四年間受講し、民話会ゆうづるの金田前会長に勧められました。

Q、語り部になられてよかった事はなんですか？

A、伊藤

語っている時、主役に成れるからですが、遠大深遠な民話の入口に立てたことです。

Q、語り部をして一番嬉しかったことをあげるとしたら？

A、伊藤

聞いて下さる方が喜んで下さる時です。

Q、昔話(民話)とは伊藤さんにとって何ですか？また、好きな民話は？

A、伊藤

日本人の心を豊にする糧で

あり、心の自然食品であり、交流する最大の道具です。好きな民話は「情けの涙」です

Q、語りを通して、大切にしている事、物を教えてください。

A、伊藤

誠心誠意、一生懸命な心と感謝の心です。

Q、最後に、今思っていること。何でも……。

A、伊藤

成人した民話会として、十年の大計が必要では！



伊藤進司さん

## 漆山地区 地名伝説集

### 「大仏の板碑」

昔、六部が一人、吹雪に行きかけて息も絶えだえ、凍死するばかりに、大仏の百姓屋に宿を求めた。家の人はすぐに茄子の木を囲炉裏にくべて、六部を温めてくれたので、ようやく蘇生した。六部はしばらくその家に厄介になってお礼に阿弥陀さまの功徳を、近くの村人に教えて立ち去ったが、何年かして、六部が再び訪れて、あの時のお礼を言おうと立ち寄ってみると、百姓はすでにこの世の人ではなかった。六部は一塔を建ててその霊を供養してくれたのが板碑であるという。

また、別の話に、大仏の先祖といわれるその家の主人が、伊勢参宮の帰途、宇都宮辺りの宿で六部に出会い、その六部の語るところでは、「実は出羽三山に参詣の折に、大仏というところで吹雪に会いようやく助かった」とのことであった。帰宅した主人は何を思ったか徳利を二本だし、家人に命じて酒を買いにやつたが、家人はどこへ行つたのか、遂に帰らなかつたと言う。後にこの話を耳にしたあの時の六部が、大仏に一塔を建てたものという。

とーぴんと

地名伝説担当編集

おりはたの里づくり推進会議

## ～お願い～

夕鶴の里駐車場への無断駐車は除雪の妨げになりますので、ご遠慮ください。やむを得ず駐車する場合は電話連絡で結構です。お知らせさせていただきますようお願いいたします。 ☎47-5800



## 年末年始休館のお知らせ

十二月二十九日(月)～

一月三日(土)まで

休館いたします

皆さん良いお正月を

お迎えください

